

( )	
( )	
	2020 8 17 2026 12 31
	2009 1 1 2024 12 31
	<p style="text-align: center;">TACE/TAI RFA</p> <p style="text-align: center;">AST ALT T. bi l D. bi l ALP</p> <p style="text-align: center;">HbA1c NH3 BUN Cre eGFR Na</p> <p style="text-align: center;">ChE /7S</p> <p style="text-align: center;">M2BPGi AFP PI VKA- AFP-L3 TSH FT4 FT3</p> <p style="text-align: center;">PT PT-INR</p> <p style="text-align: center;">NCT Number connecti on test</p> <p style="text-align: center;">L3 VTTO/Fi broscan</p> <p style="text-align: center;">RECI ST</p>
	Progressi on free survi val
	095 822 3251 4122
	9:00 17:00

# 情報公開文書

研究課題名	日本におけるNAFLDに関して、超音波エラストグラフィ（フィブロスキャン）とFib4 indexを用いた、有病率と線維化ステージ分布に関する多施設共同前向き観察研究
所属（診療科等）	長崎みなとメディカルセンター 消化器内科
研究責任者（職名）	市川辰樹（主任診療部長）
研究期間	2020年4月1日 ～ 2021年3月31日
研究目的と意義	脂肪肝を持っている方の、肝臓の硬さ（肝硬度）の分布を調査します。
研究内容	●対象となる患者さん
	当院で検診を受診される方で、腹部エコー検査で肝臓の脂肪化評価と肝硬度測定を希望される受診者
	●利用する情報
	検診の採血で測定された項目の中から赤血球数、白血球数、血小板数、総蛋白、アルブミン、AST、ALT、ALP、 $\gamma$ GTP、総ビリルビン、LDH、総コレステロール、中性脂肪、LDL、HDL、尿酸、血糖、HbA1c、BUN、Cr、腹部エコー検査で得られた肝硬度値と肝脂肪化の数値、検診受診の際の年齢、性別、身長、体重、血圧、飲酒歴、喫煙歴
●研究方法	上記の情報を検診データより収集し、脂肪肝症例における肝硬度との比較を行います。また肝脂肪肝と肝硬度の関連のある因子を血液検査、身体測定、飲酒歴喫煙歴と比較します。
問い合わせ先	所属：長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター 住所：長崎市新地町6番39号 電話：095（822）3251（内線4122） 受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）

# 情報公開文書書式

研究課題名	DPCデータベースを用いた、消化管疾患の短期成績・長期予後に関する多施設共同観察研究
所属(診療科等)	長崎みなとメディカルセンター 消化器内科
研究責任者(職名)	本田徹郎(医長)
研究期間	2019年12月13日 ~ 2024年9月30日
研究目的と意義	本研究の目的は、診療報酬の包括評価制度(DPC)データを用いて、消化管疾患にて入院診療された患者さんの状態や治療がどのように転帰に影響するのかを明らかにすることです。
研究内容	<b>●対象となる患者さん</b> 2014年1月から2023年12月の間、消化管疾患にて当院や共同研究施設で診療が行われた患者さんです。  【共同研究施設】 東京大学医学部附属病院 消化器内科、石川県立中央病院 消化器内科、市立豊中病院 消化器内科、福井県立病院 消化器内科、周東総合病院 消化器内科
	<b>●利用する情報</b> 診断名、年齢、性別、手術名、手術術式(内視鏡を用いた処置も含まれます)、使用薬剤、臨床転帰(再入院、死亡)
	<b>●研究方法</b> 当院を含む共同研究施設のDPCデータを集約し、消化管疾患で診療を受けた患者さんがどのような経過をたどったかを統計的に調べます。具体的には患者さんの短期(30日以内)及び長期(30日以降)の臨床転帰(再発、再入院、死亡)を調査します。研究で収集したデータは、研究期間終了後5年間もしくは論文発表後3年間のどちらか遅い方までの期間保存されます。保管期間後も研究で得られたデータは倫理委員会の承認を経て二次利用される可能性があります。
問い合わせ先	所属: 長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター 住所: 長崎市新地町6番39号 電話: 095(822)3251 (内線4122) 受付時間: 月~金 9:00~17:00(祝・祭日を除く)

# 情報公開文書書式

研究課題名	人工知能 (artificial intelligence、AI) による小腸カプセル内視鏡検査画像診断システムの構築
所属(診療科等)	長崎みなとメディカルセンター 消化器内科
研究責任者(職名)	本田 徹郎 (医長)
研究期間	2019年11月12日～2021年3月31日
研究目的と意義	<p>【研究の意義】 カプセル内視鏡検査は小腸疾患の診断に有用な検査です。しかし、カプセル内視鏡検査から得られる膨大な画像から小腸疾患を正確に診断することは難しく大きな課題になっています。近年、進化が著しい人工知能 (artificial intelligence、AI) は優れた画像認識能力を持ち、臨床医学へ応用されることが期待されております。これまでに大腸ポリープや胃炎の診断については研究が行われ、診断精度が高いことが報告されております。しかし、小腸疾患については十分な研究は行われていませんでした。そこで東京大学大学院情報理工学系研究科と共同で小腸疾患の診断のための自動画像診断システムを開発することになりました。開発した自動画像診断システムによって小腸疾患の診断精度を向上することができるのではないかと考えられます。</p> <p>【研究の目的】 AIを使用した小腸カプセル内視鏡検査画像診断システムを構築します。</p>
研究内容	<p>●対象となる患者さん</p> <p>2009年4月～2019年7月の間に当院ならびに共同研究機関で小腸疾患に対して小腸カプセル内視鏡検査を受けた患者さん。</p>
	<p>●利用する情報</p> <p>利用可能な最大数のデータをAIの学習、評価に用いるため、研究期間内に行われた全ての小腸カプセル内視鏡検査動画・静止画像を利用する。</p>
	<p>●研究方法</p> <p>この研究は、多施設後ろ向き観察研究であり、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則り、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、東京大学医学部附属病院ならびに共同研究機関の許可を受けて実施するものです。これまでの診療で行った小腸カプセル内視鏡検査画像のデータを収集して行う研究です。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。</p>
	<p>【共同研究機関】</p> <p>研究機関 東京大学大学院情報理工学系研究科原田達也教授 担当業務AIによる自動画像診断システムの構築</p> <p>大阪大学医学部附属病院消化器内科林義人助教 石川県立中央病院消化器内科土山寿志部長 小樽掖済会病院消化器内科勝木伸一消化器病センター長 札幌センチュリー病院消化器内科藤田朋紀部長 市立豊中病院消化器内科西田勉部長 斗南病院消化器内科住吉徹哉科長 福井県立病院消化器内科波佐谷兼慶医長 長崎みなとメディカルセンター消化器内科本田徹郎医長 周東総合病院消化器内科清時秀副部長 金沢大学医学部附属病院消化器内科北村和哉病院臨床准教授 千葉大学病院消化器内科松村倫明助教</p> <p>岡山大学病院消化器内科川野誠司助教 担当業務データ収集・匿名化</p>
問い合わせ先	<p>所属：長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター</p> <p>住所：長崎市新地町6番39号</p> <p>電話：095 (822) 3251 (内線4122)</p> <p>受付時間：月～金 9:00～17:00 (祝・祭日を除く)</p>

# 情報公開文書書式

研究課題名	「胃癌AI診断の精度向上」のための研究（多施設後ろ向き観察研究）
所属（診療科等）	長崎みなとメディカルセンター 消化器内科
研究責任者（職名）	本田 徹郎（医長）
研究期間	2019年11月12日～2023年3月31日
研究目的と意義	日本消化器内視鏡学会では、いまだに罹患者数、死亡者数の多い胃癌の発見率の向上、および、治療方針を決定する質的診断能の向上を目指して、人工知能（Artificial intelligence: AI）を用いた、胃癌の内視鏡自動診断システムの開発を行う研究を行っております。
研究内容	<b>●対象となる患者さん</b> 2009年4月～2019年8月までに、各参加施設で上部消化管内視鏡検査により胃癌と診断をうけた20歳以上の患者さんを対象にしております。この研究は、内視鏡検査で実際の診療で施行された画像および、それに付随する検査・病理報告書に記載された内容を用いて行われますので、該当する患者さんの現在・未来の診療内容には全く影響を与えませんし、不利益を受けることもありません。
	<b>●利用する情報</b> 内視鏡画像ならびに病理情報
	<b>●研究方法</b> 本研究計画では通常内視鏡診断におけるコンピューター診断支援システム computer-aided diagnosis (CAD) を完成させ、胃癌の内視鏡切除適応を決めるうえで必要な、病変サイズ（病変範囲）・組織型・深達度・潰瘍瘢痕の有無、などの正確な診断が可能なAIの開発を行う。
問い合わせ先	所属：長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター 住所：長崎市新地町6番39号 電話：095（822）3251（内線4122） 受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）

# 情報公開文書書式

研究課題名	消化器内視鏡に関連した偶発症の全国調査
所属(診療科等)	長崎みなとメディカルセンター 消化器内科
研究責任者(職名)	本田 徹郎(医長)
研究期間	2019年11月12日～2021年3月31日
研究目的と意義	「消化器内視鏡に関連した偶発症の全国調査」では、発生した偶発症については、調査期間を短く任意設定した前方視的調査、ならびに、重症事例調査として、任意に設定した調査期間の3年以内に起こった重症事例を後方視的に調査し、従来の調査に比して、より実態に近い調査を施行する。
研究内容	●対象となる患者さん 設定された調査期間中に実施された消化器内視鏡検査・治療全例
	●利用する情報 消化器内視鏡(観察・生検・治療)発生した偶発症。出血(輸血もしくは入院を必要としたもの)、穿孔、抜去困難など様々な偶発症がある。
	消化器内視鏡検査・治療の全件数および発生した偶発症件数を調べます。さらに、偶発症が発生した症例については、別のケースカードに施設名、年齢、性、偶発症の詳細について記載しますが、個人を特定する情報(名前、ID、住所など)は記載しません。ケースカードは研究責任医師が厳重に管理して、施設外には個人情報の持ち出しは行いません。
問い合わせ先	所属：長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター 住所：長崎市新地町6番39号 電話：095(822)3251(内線4122) 受付時間：月～金 9:00～17:00(祝・祭日を除く)

# 情報公開文書書式

研究課題名	十二指腸乳頭部腫瘍に対する内視鏡的乳頭切除術（EP）の長期予後評価に関する検討
所属（診療科等）	長崎みなとメディカルセンター 消化器内科
研究責任者（職名）	市川辰樹（主任診療部長）
研究期間	2019年4月26日 ～ 2020年12月31日
研究目的と意義	十二指腸乳頭部腫瘍に対して、最近では内視鏡的乳頭切除術が治療のオプションとして選択されるようになりました。適応範囲内であれば、侵襲の大きな外科的切除を避けられる点で、その治療意義は大きいと考えます。しかし、長期予後については不明な点が多く、長期予後を解析して内視鏡的乳頭切除術の有用性を明らかにすることが目的です。
研究内容	●対象となる患者さん
	2000年1月1日から2018年10月31日の間に長崎大学病院、佐世保総合医療センター、JCHO諫早総合病院、長崎みなとメディカルセンターで内視鏡的乳頭切除術を施行された患者さん。
	●利用する情報
	診断名、年齢、性別、既往歴、内服歴、検査結果（血液検査、画像診断、内視鏡検査、病理所見）、術後経過 ※本研究で利用する情報について詳細をお知りになりたい場合は下記のお問い合わせ先までご連絡ください。
研究内容	●研究方法
	上記のカルテ情報を用いて、長期予後を踏まえた内視鏡的乳頭切除術の有用性についてデータ解析を行います。
問い合わせ先	所属：長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター 住所：長崎市新地町6番39号 電話：095（822）3251（内線4122） 受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）

# 情報公開文書書式

研究課題名	RFA実施時の造影エコーの工夫・低出力Bモードの初期経験
所属(診療科等)	長崎みなとメディカルセンター 消化器内科
研究責任者(職名)	本吉 康英(診療部長)
研究期間	2019年7月22日 ~ 2019年12月31日
研究目的と意義	ソナゾイドを用いた造影エコーは、通常のBモードで確認困難な病変の描出に有効である反面、背景の情報が乏しくなる欠点がある。既報にあるBモードでの造影超音波検査の報告を参考に、穿刺治療時に低出力Bモードで造影超音波を行うことで良好な描出を得ることが可能であったので報告する。
研究内容	<p>●対象となる患者さん</p> <p>当科で使用している超音波機器で、低出力Bモードによる病変描出を行った症例から、参考画像を描出し、その有効性について検討する。症例数は、50例程度。</p>
	<p>●利用する情報</p> <p>診断名、年齢、性別、検査結果(血液検査、画像検査(特に超音波))、肝細胞癌発症時期と治療歴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・血液学的検査: RBC, Hb, Ht, WBC, Plt, PT(%、INR)</li> <li>・血液性化学検査: TB, AST, ALT, ALP, G-GTP, BUN, Cr, Alb, LDL-C, HbA1c, 血糖</li> <li>・ウイルス学的検査・腫瘍マーカーほか: HCV-RNA, HCV genotype, AFP, PIVKA-II, M2BPGi</li> </ul>
	<p>●研究方法</p> <p>撮像された画像を後方視的に検討し、視覚的な効果と治療に対するメリットデメリットを検討し、画像などを例示する。</p>
問い合わせ先	<p>所属: 長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター</p> <p>住所: 長崎市新地町6番39号</p> <p>電話: 095(822)3251 (内線4122)</p> <p>受付時間: 月~金 9:00~17:00(祝・祭日を除く)</p>



# 情報公開文書書式

研究課題名	肝細胞癌の全治療経過からみる分子標的薬（新規抗癌剤）の治療対象についての考察
所属（診療科等）	長崎みなとメディカルセンター 消化器内科
研究責任者（職名）	本吉 康英（診療部長）
研究期間	2019年7月22日 ～ 2019年12月31日
研究目的と意義	肝細胞癌は癌死亡数6位の癌であり、かつ10年生存率20%程度と長期予後も未だ良いとはいえない。近年、治療効果の改善を目指し、新規抗癌剤の開発・発表が活発になってきている。しかし、従来治療を完全に置き換えるほどの効果を有しているわけではない。そこで、当院で初発から治療・診療を継続している患者の治療経過と予後を追跡し、従来治療の成績から新規治療の治療対象を適切に選択することが必要と考えた。
研究内容	●対象となる患者さん 2012年1月から2017年12月までの間、当院で初発診断し肝細胞癌に対する治療を行った患者170例のうち、127例。
	●利用する情報 診断名、年齢、性別、検査結果（血液検査、画像検査）、肝癌に対する治療の種類および治療歴、身長、体重、生存期間 ・血液学的検査：RBC, Hb, Ht, WBC, Plt, PT (%), INR ・血液生化学検査：TB, AST, ALT, ALP, G-GTP, BUN, Cr, Alb, PT, AFP, PIVKA-II ・腫瘍マーカーほか：AFP, PIVKA-II, M2BPGi ・画像検査：CT, US, MRI, 血管造影
	●研究方法 上記の情報をカルテより収集し、下記について検討します。 ・肝細胞癌に対する治療手段・頻度、予後
問い合わせ先	所属：長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター 住所：長崎市新地町6番39号 電話：095（822）3251（内線4122） 受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）

研究課題名	C型慢性肝疾患におけるDAA治療後発癌の検討
所属(診療科等)	長崎みなとメディカルセンター 消化器内科
研究責任者(職名)	本吉 康英 (消化器内科 医長)
研究期間	2018年3月30日 ~ 2018年6月30日
研究目的と意義	DAA製剤の登場によりHCVの駆除率は飛躍的に向上し、ほぼ100%に近い。しかしながら、HCV駆除後も肝細胞癌が発症している症例が認められる。また、HCV治療が肝細胞癌の発症を促進する危険性があると主張する研究も多く認められる。今回は、当院におけるDAA治療後の患者さんを追跡し、肝細胞癌の発癌に関する危険因子や予測因子を検討する。
研究内容	●対象となる患者さん
	HCVに対するDAA製剤での治療を行った患者さんのうち、2015年1月~2017年2月までに治療を終了した234例で検討を行う(肝細胞癌を既に発癌し、これを治療し治癒に至らしめた後にDAA製剤治療を行った症例29例を含む。)
	●利用する情報
	診断名、年齢、性別、検査結果(血液検査、画像検査)、使用薬剤(DAAの種類)、身長、体重、飲酒歴、肝細胞癌発癌時期と治療歴 ・血液学的検査: RBC, Hb, Ht, WBC, Plt, PT(%), INR ・血液生化学検査: TB, AST, ALT, ALP, G-GTP, BUN, Cr, Alb, LDL-C, HbA1c, 血糖 ・ウイルス学的検査・腫瘍マーカーほか: HCV-RNA, HCV genotype, AFP, PIVKA-II, M2BPGi
	●研究方法
	上記の情報をカルテより収集し、下記について検討します。 ・DAA治療後の肝細胞癌発症頻度、肝細胞癌発症危険因子、予後
問い合わせ先	所属: 長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター 住所: 長崎市新地町6番39号 電話: 095 (822) 3251 (内線4122) 受付時間: 月~金 9:00~17:00 (祝・祭日を除く)

研究課題名	減圧を要するfStageⅡ/Ⅲ閉塞性大腸癌に対する術前大腸ステントの意義に関する研究
所属(診療科等)	長崎みなとメディカルセンター 消化器内科
研究責任者(職名)	本田 徹郎(消化器内科 医長)
研究期間	2017年5月29日 ~ 2019年4月30日
研究目的と意義	日本での閉塞性左側大腸癌に対する大腸ステント留置の意義と長期予後に及ぼす影響を探索することを目的に、各施設における治療法別の短期および長期の治療状況を集計する。
研究内容	<p>●対象となる患者さん</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2010年1月から2014年6月の間にfStageⅡ/Ⅲの閉塞性左側大腸癌(D・S・RS・Ra)に対して外科的治療を受け根治度Aとなった症例。</li> <li>2. 大腸癌切除標本で原発性大腸癌と診断されている。</li> <li>3. 外科的治療を受けた時点での年齢が20歳以上、80歳以下。</li> <li>4. 占居部位が、下行結腸(D)・S状結腸(S)・直腸S状部(RS)・上部直腸(Ra)のいずれかである。</li> <li>5. 継続的な減圧処置が必要、あるいは経口摂取不能と診断されている。</li> <li>6. 術前画像診断、切除標本の組織診断でfStageⅡ/Ⅲと診断されている。</li> </ol>
	<p>●利用する情報</p> <p>年齢、性別、身長、体重、ASA・PS、狭窄状態(大腸閉塞スコア:GROSS分類)、開腹手術既往の有無、減圧法、閉塞性大腸癌の口側大腸病変の検索の詳細、手術所見、血液検査、病理診断(大腸癌取扱い規約 第7版)、術後合併症・grade(JCOG術後合併症規準・Clavien-Dindo分類 v2.0 grade2以上) 経口摂取(3分粥以上)開始日(術後病日)、総入院日数(日)減圧のための入院と手術のための入院が別の場合は合計を記入、術後在院日数(日)、術後補助化学療法の内容、転帰</p>
	<p>●研究方法</p> <p>多施設共同後ろ向き研究、Follow-up study</p>
問い合わせ先	<p>所属:長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター</p> <p>住所:長崎市新地町6番39号</p> <p>電話:095(822)3251 (内線4122)</p> <p>受付時間:月~金 9:00~17:00(祝・祭日を除く)</p>

# 情報公開文書書式

研究課題名	事後調査：急性下部消化管出血患者に対する緊急下部内視鏡検査の出血源同定率の有効性を検討する多施設無作為化割付比較試験
所属(診療科等)	長崎みなとメディカルセンター 消化器内科
研究責任者(職名)	本田徹郎(医長)
研究期間	2020年10月20日～2021年3月31日
研究目的と意義	当院では全国11病院と共同で「事後調査：急性下部消化管出血患者に対する緊急下部内視鏡検査の出血源同定率の有効性を検討する多施設無作為化割付比較試験」という観察研究を行っております。緊急下部内視鏡試験に参加した患者さんの事後調査を行い、長期アウトカムの評価を行うことです。
研究内容	●対象となる患者さん 2016年6月～2018年5月の間に当院ならびに共同研究機関で急性下部消化管出血患者に対する緊急下部内視鏡検査の出血源同定率の有効性を検討する多施設無作為化割付比較試験に参加した患者さん。
	●利用する情報 調査項目：再出血源、血栓症の種類、死因、抗血栓薬の減量・休薬・再開の有無、血液ヘモグロビン値、アルブミン値、ヘマトクリット値、参加時の腹部症状・失神の有無・直腸診所見、血便の有無、濃厚赤血球輸血日・輸血量、集中治療室入室日・退出日、内視鏡検査施行医の経験年数、内視鏡検査中の内視鏡医の交代の有無などを調査させていただきます。
	●研究方法 この研究は、これまでに緊急下部内視鏡試験に参加して診療を行った患者さんのデータを収集して行う研究で調査はこれまでに行われた診療録を用いて行いますが、診療録の記載内容が不足している患者さんに限り、研究を行っている医師から電話調査を行わせて頂きます。電話調査は口頭で研究への参加の同意の確認の後行い、調査内容は診療録に保存されます。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。
	共同研究機関： 東京大学医学部附属病院、国立国際医療研究センター病院、石川県立中央病院、聖路加国際病院、国立国際医療研究センター国府台病院、小樽掖済会病院、市立豊中病院、斗南病院、福井県立病院、周東総合病院、地域医療機能推進機構大阪病院
問い合わせ先	所属：長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター 住所：長崎市新地町6番39号 電話：095(822)3251(内線4122) 受付時間：月～金 9:00～17:00(祝・祭日を除く)